

学友かわら版



国際ロータリー第2770地区 学友会発行
第四号 平成26年4月21日

目次

1. 「～第3回日本ロータリー学友会全国大会に参加して～」
学友会会長 関根裕子 1
2. 「あなたの手の温かみ」
学友会副幹事 中津川 祥子 3
3. 2014年～2015年度派遣奨学生を紹介 4
4. 2013年～2014年度派遣奨学生～留学地からの声 6
5. 編集後記 学友会副会長 小池 剛 史 11

学友会の在り方を問う

～第3回日本ロータリー学友会全国大会に参加して～

第2770地区学友会会長 関根裕子



昨年11月30日、第3回日本ロータリー学友会全国大会が東京神田の如水会館で開催されました。全国19地区の学友会から36人の学友、地区財団委員長など27人のロータリアンの参加に加え、ゲストとして財団本部補助金審査シニアコーディネーターの和田はるか氏、ドイツ学友会代表の栗田ゆかり氏などをお迎えしての講演会・報告会という密度の濃い催しでした。

基調講演の1つ目、「世界の学友会の組織状況、“未来の夢計画”で奨学生制度の現状と今後の見通し」（和田はるか氏）は、たいへん具体的で、グローバル補助金と地区補助金とに分かれた現在の奨学生制度の中で、とくに複雑なグローバル補助金をコーディネートしていらっしゃる和田氏らしい詳細で有益な講演でした。2つ目「ドイツ学友会の活動と東日本大震災時のドイツの支援活動」（栗田ゆかり氏）の講演からは、国際親善奨学生として留学後ミュンヘンに在住し、ロータリアンとして日本とドイツを結ぶ役割を立派に果たしている栗田氏の精力的な活動に感銘を受けました。

次に各地区学友会のそれぞれ興味深い活動報告がありましたが、とくに印象に残ったのは第 2620 地区（山梨・静岡）の山静学友会の「山静学友会誌発行 35 年」（曾根眞人元代表幹事）と全国で最初に学友によって創立された「かながわ湘南ロータリークラブ」の活動についての高木直之初代会長によるプレゼンテーションでした。というのも、当第 2770 地区学友会は、ここ数年この二つの対照的な学友会の在り方をめぐって模索してきたからです。

山梨県と静岡県の二つの県にまたがる第 2620 地区学友会では、ロータリー財団委員主導で、ロータリアンと学友の共同作業による学友会誌が発行されており、2013 年にはすでに第 29 号が刊行されています。会誌の形態は、当地区の「学友かわら版」よりはるかに豪華で、ページ数は約 150 頁にも及んでいます。内容面でも地区役員 15 名による寄稿（30 頁分）に続き、学友（10 名）のエッセイ、体験報告（5 名）、そして事務的な報告があり、学友会名簿や会則、会計報告まで掲載されています。すべてがこの 1 冊に包括的に記録されているという点で、たいへん充実しています。懇親会でお会いした曾根氏に、苦勞話を伺ったり、刊行費用を教えてくださいましたが、このような立派な会誌を作り、そして 30 年間も継続させていらっしゃる曾根氏はじめ第 2620 地区の財団委員、山静学友会の方々には頭が下がります。

私たちの『学友かわら版』には、小池剛史学友会副会長が編集に携わっており、彼の熱意が結集しています。コンパクトながらも手作り感満載で素朴な、江戸時代に重要な情報メディアだった「かわら版」のイメージを踏襲しています。私はこのささやかな『学友かわら版』に愛着を持っています。ですが、今後ロータリアンの方々のご協力を得て、山静学友会のような包括的な機関誌としての会誌を定期的に発行できるようになれば、ロータリー財団奨学生制度で派遣され、帰国後様々な分野で活躍している当地区の学友たちの歩みも、もっと確実に後世に伝わっていくと思っています。

日本ロータリー学友会の話に戻しましょう。次に、高木直之氏による「かながわ湘南ロータリークラブ」の活動についての啓発的な報告がありました。第 2780 地区のかながわ湘南ロータリークラブは、2004 年に高木氏などロータリー活動に熱意を持っている学友が中心となって設立した、日本初の学友によるロータリークラブです。バナーには、湘南のシンボルであり、暗い海を行く船の道しるべとなる灯台とその光が、若い職業人に対するロータリー活動への道標、奉仕活動を導くという意味で描かれており、とても魅力的なロータリークラブです。高木氏とは何回かお会いしお話をさせていただきましたが、たいへん精力的でアイデア豊富、頭の回転の速い方で、この方がいらしたからこそ、この学友によるロータリークラブは成功しているのだと確信しています。

ところで高木氏のプレゼンを締める言葉は「学友のみなさん、ロータリークラブを作りましょう！」というたいへん刺激的なものでした。参加していた他地区の学友からは、賛成意見と同時に反対意見も出ました。現実には全国の学友会のほとんどが、ほんの数人の役員によって運営されており、かながわ湘南 RC のような特殊な例を除いては、学友によるクラブの設立どころか、学友会そのものが存続の危機に瀕しているのです。反対意見の中には、学友はロータリアンになるために、ロータリー財団（国際親善）奨学生に応募したのではないという主張もありました。

学友によるロータリークラブ設立をめぐって、私たち学友会はこの 3 年間何度も地区の

財団委員の方々と話し合いの機会を持ち、学友会としては「時期尚早」という理由で反対してきました。最終的には、学友会としての活動と、ロータリー活動に積極的な参画を希望する学友によるロータリークラブの活動は、切り離して考えるという結論に至りました。このような経緯を経て、去る3月23日に学友による「さいたま大空ロータリークラブ」が設立されました。当学友会としましては、ロータリー活動に熱心な米山学友、GSE（VTT）学友、財団学友の方々による「大空RC」の今後の発展を見守りたいと思います。

当学友会は、今後もこれから留学する奨学生（候補生）のオリエンテーションの進行、留学のサポート、奨学生選考試験への協力、『学友かわら版』の発行などを通しての学友同志の「ゆるやか」なつながりの中で、多分野で活躍する学友による脱領域的で啓発的な催しを企画していく予定です。

すでにご案内を送付させていただきましたが、5月11日（日）には初めての学友午餐会（総会・世代別講演会）をさいたま新都心駅近くのイタリアンレストラン「イルクオーレ」（アルピーノ村の中）で開催いたします。今後の学友会の活動のために、ぜひご参加いただき、活発な意見交換をお願いいたします。

右：学友会全国大会終了後の全体写真



あなたの手の温み

学友会副幹事 中津川 祥子

今でも時々、ミラノにいる夢を見る。もしくは、今度はただの旅行者として訪れている夢。実際、この原稿を書いている朝もそんな夢を見て目が覚めた。旅行でミラノにいた私は、もう使えないはずの小さなイタリア携帯で現地カウンセラーの Flavio 氏と連絡を取っていた。今ミラノにいるの、今夜遊びに行ってもいい？もちろんだよ、ラザニアを焼いて待っているよ。そんな会話をイタリア語でちゃんとしていた、はずである。ちょうど知人がミラノに行っており、そこで撮った写真を SNS を通してみたせいもあるだろうが、それにしてもいつ見てもミラノの夢は温かくのんびりとしていて、いい匂いがする。

帰国して4年近くが経ち、折に触れミラノでの生活のことを思い出すが、その頻度が爆発的に上がるのはなぜか決まって春先のことだ。ミラノの春は暮れるのが遅かった。7時ごろになって近所の教会のベルが乱れるように鳴り、薄青く曇った空気を一気に砕いてからようやく、夕暮れを意識した。ミラノでのこの時期というのはコンサートもコンクールもなく、学校のスケジュールも普段のレッスンのみという余裕のある毎日、もっといえば

特に記憶に残るような出来事があったわけでもないのに。そういう、いわば本業に忙しかつた日々ももちろん覚えている。ただの「思い出」ではなく「積み重ね」として体に残っているといったほうが正確だろう。しかし、本業以外の部分での細々したこと—たとえば近所の公園で一斉に花が咲き、その美しさの中で数10分を過ごしたこと、そのときの匂いも含めて—は、自分でも予測できないほど何気ない一瞬にひょっこり顔をだし、その一瞬にして体中を支配する。ミラノにいた時の自分にまき戻ってしまうのだ。思えば、ミラノでふと「ああ、ここに来られてよかったなあ」としみじみと、いろいろな方のお顔を思い浮かべながら感謝の思いに浸ったのも、通学のためにいつも乗るトラムにいつも通りに乗ったその瞬間だった。私の中では日本とミラノとは一瞬でつながるものらしい。

言うとなんか驚くことだが、私はこの留学まで海外に行ったことがなかった。1人暮らしすらしたことがなかった。それが突然、ミラノという場所でたった1人で生活することになった。それがどういうことなのか、自分が正確につかめていないのだという自覚だけはあったが、だからといってどうすることも出来なかった。時々あるオリエンテーションで同期の奨学生と話すことだけが、自分の未来につながっている気がしていた。そんななか、よく留学への思いを途切れさせず行動し続けられたと思う。そのころようやくひとつ論文にすることが出来たばかりのお茶の水女子大学大学院での自分の研究に対しての焦りもなかったわけではないが、挑戦するのも留学するのも、現実的にみて今は最後だろうという考えもあった。その現実を見ての考えが私を後押ししたのかもしれない。同時に、何年も奨学生になることを勧め続けて下さった方の存在も、私の退路を断っていた。選ぶことも決断することも苦手な私だが、こうやって自分の考えと人の力をお借りして踏み出していくことで人生は築き上げていくものなのかもしれない、と今になって思う。



カウンセラーの Flavio Garcia

帰国以後目標としていた大学での声楽教員としてのキャリアを、ようやく、本当によろしく今秋からスタートさせることが出来る。これが実現したのも、縁ある方からの推薦があつてこそだった。つくづく、助けられてばかりの人生である。差し出された手の温み、それこそが私を前進させてくれる。私もいつか、誰かのために手を差し出したい。

2014年～2015年度派遣奨学生候補生の紹介

ロータリー財団地区補助金奨学生

谷川 恵（大宮東ロータリークラブ推薦）



はじめまして、谷川恵と申します。この度は、ロータリー財団の派遣奨学生として留学の機会をいただきますことに心より御礼申し上げます。

私は現在、東京大学大学院の修士課程に在籍しております。専門分野はフランス言語学で、フランス語の文の構造や語順の研究をしています。

2014年夏より、フランス・パリ第7大学大学院博士課程に留学したいと考えており、準備を進めているところです。

フランス留学の第一の目標は、言語学研究に関する専門的な知識・経験を積むことです。同時に、人間のコミュニケーションを担っていることばの研究や現地での生活を通じて、フランスの文化についても理解を深めたいと思いますし、日本とは異なる文化・言語の中に身を置くことによって、日本文化や日本語についても新たな発見を感じられればと思っています。

将来的には、研究者として、また外国語として日本語・フランス語を教える教員として社会に貢献していきたいと考えております。今後とも、ご指導いただけますようお願い申し上げます。

ロータリー財団グローバル補助金奨学生

有 満 麻 理（さいたま中央RC推薦）



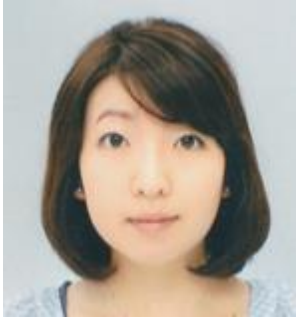
この度は、国際ロータリー第2770地区の奨学候補生として選んでいただきまして、誠にありがとうございます。先日スウェーデンのルンド大学大学院の修士課程に入学が決まりました。昨年受験いたしました平和フェローには残念ながら不合格となりましたが、気持ちを新たに、開発途上国における国際開発について理論と実践を学んでまいります。平和と開発はお互い

切り離せないものですので、平和に寄与する志を高く持ちながら、勉学に励んでまいります。入学予定のプログラムでは、2年目に開発途上国での現地実習も予定されており、机上の理論だけではなく、現地の方々に寄り添った支援を実践的に学べることを嬉しく思います。

現在、奨学候補生として、全5回のオリエンテーションに参加させていただいております。博識で心優しいロータリアンの皆さん、他の優秀な奨学候補生の皆さんから学ぶことがとても多いです。この場をお借りして、皆様に心から感謝申し上げます。

自分ができる「みんなにいいこと」を日々実践し、近い将来、地域や国際社会、そしてロータリーに恩返しできるよう、努力してまいります。引き続き、ご指導・ご鞭撻いただきたく、何卒よろしくお願いいたします。

石 関 千 穂（浦和RC推薦）



このたび、グローバル補助金の奨学候補生に選んでいただき、誠にありがとうございます。私は津田塾大学の国際関係学科を卒業し、金融機関に3年間勤め、現在は内閣府や外務省が主催する国際交流事業をサポートする仕事をしています。実は、30年程前になりますが、母も私と同じ年齢の時にロータリーの奨学生として留学させていただいた経験があり、親子2代でこのような幸運に恵まれたことに大変感謝しております。

私は今年、イギリスのロンドン大学の修士課程においてロータリーが掲げる重点分野のうち、「経済と地域社会の発展」について知識を深めたいと考えおり、特に、開発途上国の持続可能な発展を実現するためにビジネスが果たす役割について勉強したいと考えています。今まで政府主体で行ってきた国際協力や開発という分野において、今後は民間企業や個人がそれぞれの強みを活かして積極的に貢献する時代が来ると確信しています。世界の貧困問題や環境問題を解決し、先進国と途上国が共に発展していくために、民間企業や個人がどのように活動し、新たな役割を担っていけるのかという今後の可能性について、イギリスという長い歴史をもち国際色豊かな国で精一杯学びたいと考えています。

2013 年～2014 年度派遣奨学生～留学地からの声

徳星 達仁（大宮シティRC推薦）

9月に始まった留学生活も早くも3分の1が過ぎました。英国の食事や気候にもすっかり慣れ、おかげさまで元気に過ごしております。英国は寒いイメージがありましたが、ランカスターは海に近いめか、大雪の降った日本よりもむしろ穏やかな気候です。



ランカスターRC 会長宅にて

（写真中央が会長、右隣が奥様）

話を聞くという流れで、日本と似た雰囲気があります。会長やカウンセラーが自宅の食事に招いてくださったり、地元の有名なパブやクリスマスコンサートに連れて行ってくださったりと、ロータリー奨学生ならではの貴重な経験をさせていただいています。3月には、地区大会にてスピーチをさせてい

ただく予定です。

引き続き、目標に向かって精進してまいります。日本の皆様も、どうぞご自愛くださいませ。

1月には、1学期の学期末の課題として5,000語×3本、合計50ページ以上にわたる小論文を書きました。英語で論文を書くのは初めてだったので初めは不安もありましたが、世界各国から集まった同志達と励まし合い、なんとか乗り越えることができました。

こちらでも、現地のロータリアンの皆様にとってもお世話になっています。ランカスターロータリークラブは約30名ほどのクラブで、毎週月曜日の夜に例会が開催されます。例会は皆さんで食事をした後にゲストスピーカーの卓

関 理 佐（さいたま新都心RC推薦）

こちらは1月の中旬から春学期が始まりました。秋学期には“舞台芸術に関するフェミニズム”や“社会や文化におけるダンス”といった授業を受講しておりましたが、今期はいよいよ経済学部のアートマネジメントのクラスが始まり、実際にイベントを企画するにはどうしたら良いのか、何に注意しなければならないのか、など実践的なことを学んでいます。経済学部での授業はこれまでと雰囲気が異なり毎回緊張と不安を抱えながらではありますが、少しでも多くのことを吸収できるように頑張ります。

最近はすっかりルーティーンな生活になってきましたが、そんな中今一番驚いていることはストライキの多さです。バスや電車のストライキは以前から聞いておりましたが、更

に教師によるストライキの為に授業が急遽休講になることが多々あります。ただでさえ限られた授業数の中、こんなにも頻繁に休講にして良いのだろうか・・・と疑問にすら思います。真面目な日本では考えられないことです。



10月に行われた地区大会で他国からの奨学生と共
ので、このような機会が巡ってきたことに驚きと感謝でいっぱいです。

残りの留学生生活をより有意義に過ごすことが出来るよう、引き続き気を緩めず励んで参ります。

最後にバレエについて少しだけ御報告します。今学期も前期同様、座学に加えてバレエの実技の授業やクラブ活動にて変わらずレッスンに努めております。更に、とある振付者からスカウトして頂き、春に舞台に立つことになりました。それも Royal Academy of Music という王立音楽院とのコラボ企画ということで、私たちのグループはトランペットとチェロの生演奏で踊る予定だそうです。こんなにも貴重な体験は望んでも出来るものではない



現在暮らしている寮



普段レッスンを行っているスタジオ

石山雄大（久喜・菖蒲RC推薦）

日本は最近雪が降ったそうですね。私が留学しているシンガポールは、ほとんどいつも良い天気なので、たまに日本の四季を懐かしく思い出します。皆様はいかがお過ごしでしょうか。私の方は、第2学期の終わりを間近に控え、来期の授業に何を取ろうか思案しているところです。このレポートではこの7か月間あまり経過した留学生活についてご報告させていただきます。

まず学業についてですが、7月1日の夜中にシンガポールに到着し、1か月の英語研修を受けた後、本番のプログラムにおいて、金融や経済、マーケティング等の科目を受講しています。授業は参加型のスタイルでアジア発のグローバル企業に関するビジネス事例が扱われます。授業では、よく5, 6名のグループで研究した内容をプレゼンするのですが、この準備作業も含めた活動がMBAの醍醐味だろうと感じています。正直、本番授業の開始時点では、こちらの参加型授業スタイルや他国からの留学生の優秀さに戸惑っていたものの、7か月経った今ではグループワークにおいてリーダーシップを発揮できるまでになりました。

次にロータリーの活動ですが、私がこちらで属する地区は第3310地区で、その中でもSerangoon Gardens Orchardというクラブにお世話になっています。昨年、初めてスピーチの機会があり、自己紹介と学校生活、留学の目的、日本の文化・観光名所について、プレゼンしました。日本の文化について関心があったようで、プレゼンの中の政府観光局のVTRを上映したら、特に興味を持っていらっしゃいました。例会の最後に、スポンサークラブの第2770地区の久喜・菖蒲ロータリークラブの旗の交換をし、初めてのロータリー活動を行いました。今後は、他のクラブとの合同で例会を行い、私のスピーチと旗の交換を行う予定です。

〈最後に〉

留学もあと4か月程度になりますが、毎日を充実したものにするべく、努力し続けたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



〈左・クラスメイトとの集合写真、クラーキーにて／右・バンダイ主催のビジネスアイデアコンペティション出場時のチームメイトとの写真、会場のNUSにて〉

吉 田 恵（大宮東RC推薦）

お久しぶりです。早いものでこちらに来てから8ヶ月経ちました。イスラエルにも春が訪れて、日中はすでに初夏のようです。イスラエルの春を体験するのは初めてですが、春はベストシーズンだと感じています。先日、エルサレム郊外にピクニックに行ってきました。新緑が綺麗で、とても癒されました。



エルサレムに郊外にピクニックに行ったところ、ひつじの大群に遭遇しました！

も気さくでフレンドリーでお話をしてもとても楽しいのと勉強になります。

残りの留学生活でもご縁を大事にして、人とのつながりを大事にしていきたいと思っています。また、留学生活も折り返しとなったので、留学を通して何を実現したいのかももう一度整理して、夢を実現できるように、後悔のような留学生活を送りたいと気持ちを引き締めているところです。ヘブライ語も、留学当初に比べて、かなり分かることが増えてきたことを最近感じています。語学学習を含め、留学の折り返し地点であることを意識して全力で出来ることを頑張りながら留学生生活を過ごしたいと思っています。

こちらに来てから、あっという間だなと思う反面、もっと前からいるような不思議な気分です。こちらの受け入れクラブであるエルサレム・ロータリークラブの皆様には親切にさせていただいており、カウンセラーの方にもかなりお世話になっています。ロータリーの奨学生として留学できた特権は、学生以外の方ともお会い出来ることによって視野が広がることだと思っています。先月は、例会でスピーチをさせて頂きました。こちらのロータリークラブの方は、日本のロータリーの方と同様にとて



イスラエルの春はベストシーズンです。新緑と咲き始めた花々がとても綺麗です。

学友会 幹事会からのお知らせ

「学友 かわら版」創刊号でもお願いお知らせ致しましたが、2770 地区各学友会では、学友会活性化のための名簿整理と皆様のご意見収集に努めております。つきましては、以下の項目をご記入の上、学友会のアドレスに送信していただきますよう、再度お願い申し上げます。すでにお送り頂いた方は、どうぞご放念下さい。

(1) お名前 (2) 留学年度と奨学金の種類(財団・米山・GSE・VTT) (3) スポンサークラブ (4) 留学先 (5) 現在のお勤め先または職業 (6) ご専門 (7) 学友会へのご意見やご要望

学友会メールアドレス gakuyu2770@gmail.com

どうぞ宜しくお願い致します。

学友会 幹事会

かわら版第四号をお届け致します。

本来ならば、2013 年の年末にお届けすべき本号が、発行がこのように遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

かわら版にて、初めて現在留学されている奨学生の記事と、これから留学される候補生の方々の記事が同時に掲載されました。毎年選抜される学友の世代間のつながりが、かわら版を通して形になっていくように思います。留学準備中のお忙しい中に自己紹介文をお送り頂いた谷川さん、有満さん、石関さん、有難うございました。また遥か彼方、英国、シンガポール、イスラエルから記事をお送り下さった徳星さん、関さん、石山さん、吉田さん、有難うございました。

関根会長の巻頭言にもございましたが、本地区の学友会は、まずは学友間の緩やかな絆を作り上げていくことが現在の仕事であると考えております。また、学友会が細くとも長く続くことを望んでいます。このようなわけで本かわら版も 20 ページにもならない正しく江戸時代のかかわら版ですが、これから学友間の絆を築き上げてより多くの方にもご投稿頂き、いずれは 150 ページ (!) に達するようなかかわら版を発行できればと思っております。

今後とも皆さまのご投稿をお待ち申し上げます。

(「学友 かわら版」編集担当 小池剛史)